



# 音楽のよろこび

2023年7月24日 No.51  
発行文責 担当事務局  
田中正恭 田村乃里子

あつ〜い夏の到来です。今日は祇園祭の後の宵です。人手も多く京都の夏本番の趣ですね。さて今日の講座は、岡本哲さんをおむかえしてのトロンボーン講座です。

2017年度、1年目にも来ていただいていますので、久しぶりの登場という事になります。その時は、トロンボーンという楽器のすばらしい響きと歴史、そして、その時共演していただいた3人の若いトロンボーン奏者の未来を、どうして切り開いていくのか…等のお話から、音楽家、演奏家の厳しい生活、現実をも私たちは知りました。若い音楽家への暖かく、優しい眼差しで彼らを、励まし見守る方なのだなあ〜、さすが京響のトロンボーン首席！！などと、思ったものでした。

そして今回のテーマは、「オーケストラにおけるトロンボーンの世界」それぞれの時代、作曲家のトロンボーンの世界等、岡本哲さん他2名のトロンボーン奏者の方の演奏とお話です。

《トロンボーンについてちょっと予習》

- ・中低音を支える金管楽器の一種
- ・最大の特徴はスライドで音階を調整
- ・スライドする位置は7つある
- ・交響曲に初めてトロンボーンを使ったのは、ヴェートーベンの「交響曲第5番（運命）」
- ・スライド管はほとんど伸ばしていくと最後は、はずれる

## ♪ 前回 「チェロ協奏曲の世界」 ♪

チェロ 渡邊正和さん

ピアノ 小林千恵さん

素晴らしい演奏でしたね。「コンチェルト」というジャンルは、作曲家も、その楽器（今回はチェロ）の持っている「能力」の全てを駆使しての音楽づくりをしている訳で、あらゆるテクニックを演奏家に要求しての最高の作品を旨とした曲と言えるのかなあ〜

そして、演奏家はそれに応え、演奏家個々の内面を通して、音楽を創り上げる事なのかなあ〜などと、家に帰ってから考えてしまいました。……この日は、協奏曲の歴史をたどりながら、たくさんのお名曲の「聴きどころ」を時間の制約の中で、精一杯、私達に届けていただきました。アンケートの中に「一曲でもはじめるから終わりまで聴きたかった」と書かれた方がおられました。私も同感。以前の講座でもモーツァルトの協奏曲変ロ長調（ヴァイオリン・杉江さん、ヴィオラ・金本さん）をピアノとの三人で、一楽章から三楽章まで、全曲を聴かせていただいた事があります。これは特別の回として、今も記憶に鮮やかです。次回チャンスがあれば、是非、そのような形で実現できたらと思っています。



今回のピアノの小林さんは、以前にも共演していただき、ピアノ一台でオーケストラの役割を美しく演奏してもらいました。ピアノも凄い楽器だと改めて感じました。ありがとうございました。そして、単なる「プログラム」ではなく、一曲毎に説明付きのものを出していただいた、渡邊さんに感謝です。（それで、今回の「ノート」はありません。）

## ～アンケートから～

いつもアンケートにご協力  
ありがとうございます。  
アンケートは一部抜粋したのもの  
あります。ご了承ください。

曲の解説を詳しくしていただいたので、チェロの理解が深まりました。ピアノも素敵でした。渡邊先生は横顔が布施明に似ていますね。

\* \* \* \* \*

チェロの音色はとてもやさしくて、心が落ち着きます。時代を追っての曲の紹介は流れがよくわかりました。一つ一つの曲をきちんと聴きたいと思いました。

\* \* \* \* \*

チェロ単独の演奏、初めて聴きました。重厚な音色で迫力のある感じで、腹に響くどっしりとしたものに感じました。今回たくさんの曲を聴き、音楽の歴史と名作曲者特色など説明を受け、益々音楽が楽しくなっています。この教室に参加して2年目ですが、演奏会に自発的に行くようになり、傘寿を超え、少し人生が豊かになっている心持です。

\* \* \* \* \*

本日も渡邊さんの分かりやすい解説付きで、たくさん曲を楽しめました。作曲家についてのお話、曲についてのお話など、知らなかったこともありました。ピアノの小林さんとの息の合った演奏を、最後まで（途中退席しました）楽しめました。（あらかさま）

\* \* \* \* \*

知っているようで知らなかった、チェロの奏法と音色の多彩さにびっくりでした。新三大チェロコンチェルトとして、ドボルジャーク、エルガー、ショスタコーヴィチにならないのでしょうか？古典も良いですが、チェロの素晴らしさや他の弦とは違う奏法など、こんな作品がもっと出てきてほしいですね。前の席に座れたので、よく見られたのですが、弦楽器特有の雑音（？）も直接耳に入ってしまい残念。（布川さま）



エルガーのチェロ協奏曲は、ヴァイオリンやギターのような音色の演奏で音域も広いことが、理解できた。バーバーのチェロ協奏曲、色々な奏法でエネルギッシュで、メモにもあったように、ドラマティックな演奏でした。素敵な時間をありがとうございました。小林さんのマエストロ広上さんとソリストの裏話、面白かったです。

\* \* \* \* \*

低音部分の音色が、とても素晴らしいです。チェロ協奏曲をはじめて聴いたので、心に深くしみました。”ブラボー”です。

\* \* \* \* \*

チェロによるおいしい所ばかりの、大変嬉しいごちそうでした。ドボルジャークのチェロ協奏曲は、やはり、故郷の民族音楽を土台にしているな～と思いました。渡邊先生のチェロ演奏は、高齢者大学で2度聴かせていただきました。身近に聴ける幸せを胸いっぱい感じています。（藤井さま）

\* \* \* \* \*

楽しい演奏会でした。チェロの音楽史を演奏付きで聴くことが出来、満足でした。チェロを目の前で聴いて、すごい迫力に圧倒されました。（来住さま）

\* \* \* \* \*

今回も楽しかったです。好きなチェロですので楽しみました。何か1曲でよいから、全部を演奏してもらってもよかったです。



踊るようなハイドンのチェロ協奏曲、演奏の渡邊さんの楽しげな表情。楽譜なしで空間に譜面がみえるかのように。1960年プラハで発見されたのに「1番」なのですね。シューマン以降のチェロ協奏曲は、チェロの楽器としての「人格」が見えるような曲が構成されている印象を受けました。ドボルジャークの沸き立つような感情のほとばしりがメロディーに託されています。チェロならではの技法を、駆使したエルガーの作品の演奏は、チェロの個性を存分に引き出されていて、大変心惹かれました。チェロの音色はとても気持ちが安定するので、今後とも機会あるごとに聴きたいです。ピアノ演奏も軽やかで、ありがとうございます。(外村さま)

中身の濃い講座でした。家に帰ってまたCDで改めて、全曲聴きたいと思いました。楽しかったです。初歩的な質問。弦楽器の孔の形ですが、S型、C型ですが、音響と形は関連がありますか？



チェロとピアノ、聴きやすい良い曲でした。分かりやすく楽しい曲が多かった。奏者の方が笑顔で解説されていて、好感が持てました。最後の曲は全身全霊で、演奏されていて、大感動しました。よかったです。前から3列目に座りました。演奏の方の表情がわかり良かったです。ありがとうございました。



コンサート会場では、いつもヴァイオリンが目立っているように感じますが、チェロをもっと幅をきかせてほしいです。あんなに素敵な音色なのに。



## ♪音楽に関する「ことば」 「詩」「文学的成句」

シェイクスピア (William Shakespeare) の作品から  
(1564~1616)

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」「文学的成句」などを書いていきます。》

彼の最高の喜劇 (ロマンティック・コメディ) とされる、「12夜」 (*Twelfth Night* 1600年) の第一幕第一場から、「音楽が恋の糧であるなら、続けてくれ」 if music be the food of love, play on. とあります。また第二幕第四場面でも「音楽を聴かせてくれ」というセリフもあります。

イタリアの公爵オーシーノーは、オリヴィアという女性に恋をしているが、父と兄を亡くしたばかりの彼女は喪に服し合わない…そこでオーシーノーは楽師たちにこの様に命じるのである。

シェイクスピアは別の作品「アントニーとクレオパトラ」第二幕第五場でもクレオパトラに「…音楽こそは恋する者の悲しい心の糧…」 music, moody food of that trade in love と言わせている。音楽は恋する者にとって、ますます恋心をつのらせるもの。だから、映画でも舞台でも、ラブシーンになると決まって音楽が流れてくる……。 (シェイクスピア名言集 小田島雄志著より)

シェイクスピアは、16世紀後半から17世紀はじめに生きた人。彼はどんな音楽が好きだったのでしょうか。そのころは未だ北フランスのトルヴェール、ドイツのミンネジンガーがよく知られている吟遊詩人の世界…ですが。。。。 (M.T)

次回は8月28日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「サマーコンサート 弦楽五重奏」

プログラムは未定?!

標準的な構成は、

ヴァイオリン2、ヴィオラ2、チェロですが……。お楽しみに!!!



メ 七